

単元名

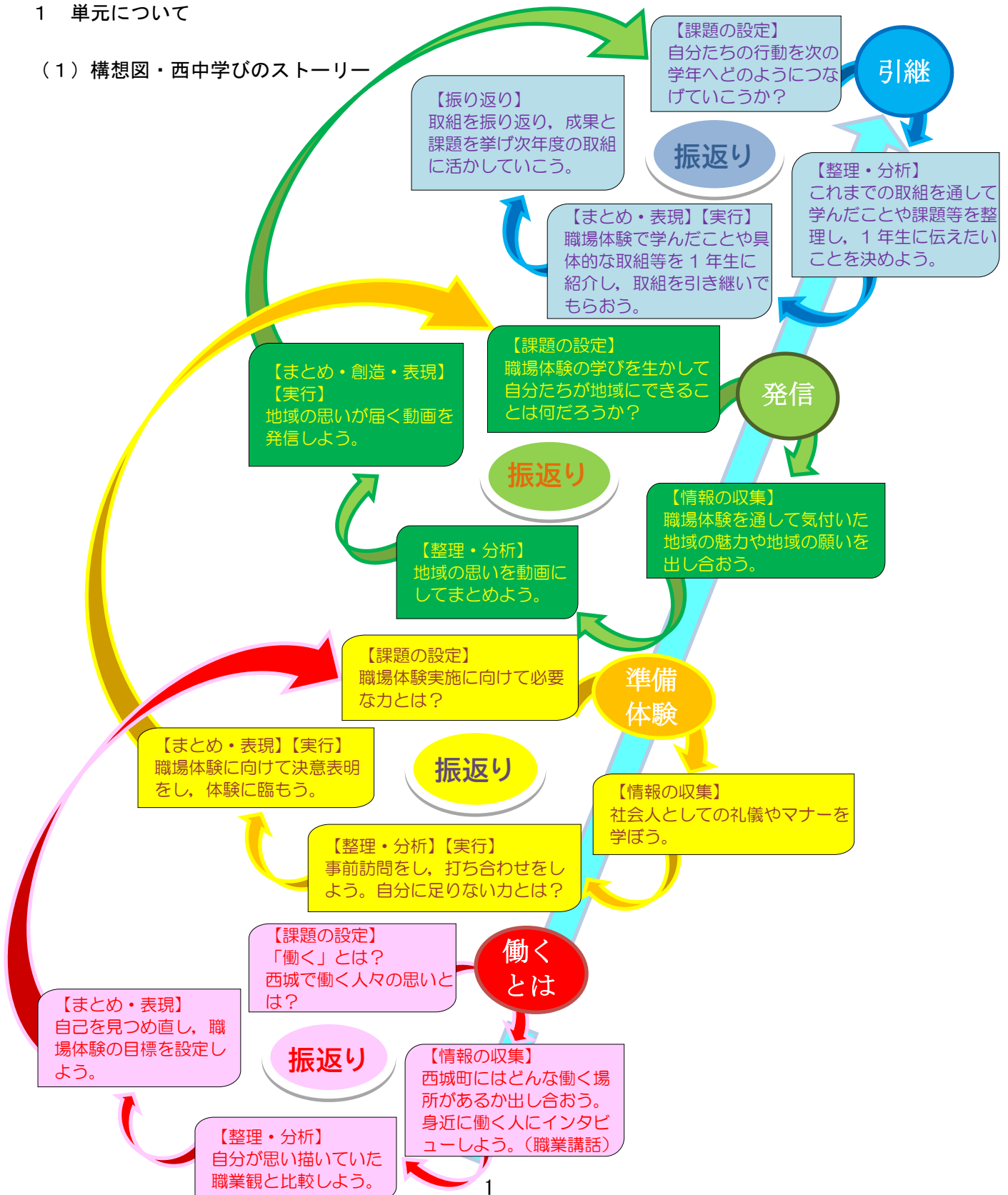
「探ろう！西城サポーター ～西城を支える人・自分・仕事～」

本単元で育成する資質・能力

主体性 協調性 課題解決力

1 単元について

(1) 構想図・西中学びのストーリー



本校では、総合的な学習の時間の探究課題を、「郷土を考える」と「生き方を考える」の2つに設定している。また、今年度より広島県教育委員会から「探究的な学習の在り方に関する研究推進地域事業」の指定を受け、PBL（プロジェクト型学習）の考え方に基づく単元開発を進めている。本校の総合的な学習の時間の単元構成は、次のように考えている。小単元をプロセス、単元全体をストーリーとし、1つ1つの小単元（プロセス）をその単元全体（ストーリー）のゴールに向かって積み重ねていく。各小単元（プロセス）では、「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」のサイクルで回す。各小単元（プロセス）の終わりに活動を振り返り、次の小単元（プロセス）へと高めていく。その学習過程を単元として1つにまとめたものがストーリーで、前頁に今回の第2学年の「郷土を考える」の単元（ストーリー）「探ろう！西城サポーター～西城を支える人・自分・仕事～」を構想図として示している。

第2学年では、毎年1学期に職場体験学習を実施している。本単元（ストーリー）では、この職場体験学習の学びを活かした新たな単元づくりに取り組み、4つの小単元（プロセス）で単元全体（ストーリー）を構成することとした。小単元（プロセス1）では、身近に働く人へのインタビュー活動や地元である西城町で活躍されている方の講話を聞くことを通して、「働く意味」、「職業選択における難しさ」や「仕事としてのやりがい」を学ぶ。小単元（プロセス2）では、マナー講習や事前打ち合わせ等を通して、「働く上での礼儀やマナー」や「コミュニケーションの大切さ」を学び、職場体験学習に臨む。それとともに、西城町を活性化させるという単元（ストーリー）のゴールに向け、意図的に西城町のキャラクターをデザインされた方を講師に招聘したり、職場体験先を西城町の特産物を生産されている農家に依頼したりすることで、より地域とのつながりを深める。小単元（プロセス3）では、職場体験学習を通して学んだことを基に西城町の活性化に着目した探究的な学習活動を進める。小単元（プロセス4）では、単元（ストーリー）のまとめとして、これまでの取組を1年生に向けて発信し、地域とつながる職場体験学習を引き継ぐことで、次年度にもつながる単元（ストーリー）とした。このように職場体験学習を核として各小単元（プロセス）を構成することで、生徒は地域の方々の仕事に対する思い、地域活性化への取組や願いを直接的に体感し、自己の将来と未来の西城町とのつながりを考えることができる。また、地域の一員として今の自分が地域のためにできることは何かを考え、それを行動にすることができる。この一連の活動が探究的な学習になると考えている。一人一人の生徒の主体性を伸ばし、協調性を高め、生徒の郷土に対する理解と愛着を更に深める単元にしていきたい。

（2）生徒観

今年度の1学期に行った「育成したい資質・能力に関するアンケート」では、次のような結果であった。

資質・能力	質問内容	肯定的回答 (%)	
		1学期当初	1学期学期末
主体性	私は授業や行事など様々な活動に自ら進んで参加したり行動したりしています。	67	88
	私は生活や学習の中での課題や問題点を自ら見つけて解決しようとしています。	63	72
協調性	私は授業や生活の中で、自分とは異なる仲間の様々な意見を大切にしながら、意見の合意に向けて柔軟に取り組んでいます。	92	80
	私は課題解決に向けて、班やクラスでの話し合いに積極的に参加し、協力しています。	75	84
課題解決力	私は課題や問題の解決のために、その方法や手順を考える等、計画的に取り組むことができます。	38	64
	私は相手意識をもって、順序立てて説明するなど相手にわかりやすく伝えるように表現することができます。	29	76

第2学年は全体的に活気があり、授業や部活動に積極的に参加し取り組むことができる。アンケートの結果からも分かるように、ほとんどの生徒が主体的に学習に取り組んでおり、特にクラスや

班での話し合い活動では、課題解決に向けて積極的に参加し、協力していくこと（班やペアで話し合う際には自分の考えをもち、相互に意見を述べ合うことができる。）ができてきている。しかし、年度当初の課題解決力の項目では、肯定的な回答の割合は低く、課題があると捉えた。この課題を改善するために次の2つの取組を行うことで生徒に変容が見られた。1つ目は教師が意図的に思考ツールを活用し、生徒に考えを整理し、表現させることを習慣付けたこと、2つ目は他者とのコミュニケーションを通し活動を進める学習展開を総合的な学習の時間に多く設定したことである。例えば、他者とのコミュニケーションをとる場面として、「身近で働く人へのインタビュー」、「マナー講習」、「履歴書づくり」、「事前事後を含めた農業体験学習」等を設定し、人間関係づくりや表現力の向上を図った。この2つの取組を仕組みながら学習活動を進める中で、生徒がゴールを見据えながら1つ1つの活動を進め、苦労しながらも生徒自身の力でやり切る場面が増えた。特に、職場体験先の事業所の方と継続的にコミュニケーションを図り、常に相手意識をもちながら自己表現したことで、自ら表現することに対する自信が少しずつ芽生え、生徒の課題解決に対する苦手意識が少しずつ改善されてきた。

現状の課題は、次の2点と考える。1点目は、ゴールへの見通しをしっかりともつことである。目の前の課題に対して活発に取り組むことはできるが、先のことを考え、より良くするためには何が必要か等、ゴールへの見通しをもって取組を進めることは十分にはできていない。2点目は、状況の変化や困難さに対応できる表現力を高めることである。協議の場面では、想定外の意見に相対することもあるが、十分には自信がもてず、臨機応変に対応することに難しさがある。

(3) 指導観

指導をするにあたり、小単元（プロセス）のゴールだけでなく、単元全体（ストーリー）のゴール「西城町を活性化する」を意識させ、目標を立て計画的に最後まで粘り強く取り組む力を育成していきたい。課題を解決する場面では、教師主導ではなく生徒が主体となって地域の良さに気づき、自分たちでその良さをアピールできる取組がつけられるよう、仲間と議論し、協力して課題を解決する活動を多く仕組む。本小単元（プロセス3）では、学習課題を「職場体験学習での取組を活かした地域発信」とし、自分たちの力でできる地域貢献としてビデオメッセージの作成に取り組ませる。ビデオメッセージの作成の過程では、事業所以外の方に向けて「事業所や地域の農産物の魅力を伝える」、事業所の方に向けて「お世話になった感謝の気持ちを届ける」という双方向（事業所以外の方、事業所の方）への意識を常にもたせる。職場体験学習のねらいとともに地域活性化という単元（ストーリー）のねらいにもつなげる。また、グループで相互の作品を交流、比較し、他のグループの作品から自分たちの改善点や解決策を引き出させる。生徒自身の力で試行錯誤しながら課題解決に向けて取組を行うことで、達成感を自信にさせていきたい。

小単元（プロセス4）では、小単元（プロセス3）までの取組を活かし、次年度職場体験学習を行う1年生に向けて、職場体験学習の学びとともに、地域発信に向けて自分たちが取り組んできたことを紹介する。「働くことの意義や目的」と「地域活性化」の2つの視点でこれまでの活動の成果と課題を整理・分析し、1年生に伝えるべき内容をポスターに表現して発表する。次年度も地域とつながる職場体験学習となるように、自分たちの思いを1年生へ伝える。また、文化祭で全校生徒にも発信し、第2学年の「郷土を考える」の単元（ストーリー）を締めくくる。

2 小単元（プロセス3）の目標

【主体性】

自分と地域の未来を探り、自己の生き方や地域に対して自分にできること考える態度を育む。

【協調性】

職場体験学習を通して地域の方々の仕事に対する思いと地域活性化への取組や願いに気付かせる。

【課題解決力】

地域貢献に向けて自分たちにできることを情報収集・整理分析しながら多面的・多角的に考えながら企画する力、また、それを表現する力を身に付けさせる。

3 小単元（プロセス3）の評価規準と本校で育成したい資質・能力とのかかわり

評価の観点	本校で育成したい資質・能力	評価規準
知識・技能	課題解決力	① 職場体験学習を通して学んだ地域の魅力や事業所の方の思いを理解し、動画の内容に活かそうとしている。【知・技】
思考・判断・表現		② 動画発信の目的を理解して、見通しをもって計画的に動画作成に取り組んでいる。【知・技】 ③ 職場体験学習の振り返りや事業所インタビュー等の情報を的確に選択し、動画の構成を考えている。【知・技】 ④ 見方や考え方を変えながら視点（地域の魅力、体験先の方の思い）を明確にして、取組を進めている。【思・判・表】 ⑤ 学びの発信では、動画を届ける相手を意識し、相手に分かりやすく伝わるように表現している。【思・判・表】 ⑥ 学びの発信の取組を振り返り、次の1年生に向けての発信に活かせることを考えている。【思・判・表】
主体的に学習に取り組む態度	主体性	⑦ 職場体験学習での学びを地域貢献にどのように活かしていけるか考え、地域発信に向けての取組を実行しようとしている。 ⑧ 地域貢献や動画の表現方法を考える中で、積極的に提案したり意見を述べたりしながら学びの発信の取組に参加している。
	協調性	⑨ 仲間の考えや意見を受け入れ、参考にしながら、自分たちの動画をより思いが伝わるものにしようとしている。 ⑩ 互いの様々な意見を大切に、地域や自分たちの思いが伝わる内容が発信できるよう、意見をまとめながら柔軟に取組を進めている。 ⑪ 仲間と試行錯誤しながら思いが伝わる動画になるように、積極的に仲間と協議しながら工夫し、動画を完成させようとしている。

4 小単元（プロセス3）における指導と評価の計画（全40時間のうちの1単元分11/15時間）

時	学習内容 ◎他教科等とのつながり	評価			
		知	思	主	評価規準（評価方法）
1	<p>課題の設定</p> <p>職場体験学習での学びを活かした地域貢献を考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域貢献とは何か、誰に対して取組をするのか、何のためにするのか、職場体験学習を生かした地域貢献とはどんなことができるのか、考える。 「職場体験学習を活かす」ことに重点を置きながら、地域貢献でどんな思いを届けることが必要か意見を出し合う。 <p>→職場体験先で知った「地域（農産物）の魅力」や「職場体験先の方の思い」をお世話になった事業所だけでなく、地域に発信することで、事業所への感謝の気持ちを届けると同時に、地域貢献にもつながるのではないか。</p>			○	主-⑦ (行動観察, ワークシート)
2	<p>情報の収集</p> <p>職場体験先の方の地域への思いや願いを探ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 職場体験先の方々がどのような思いで仕事をされていたかについて着目し、職場体験先の方の魅力や地域とのつながり、職場体験先の方の思いについて考えを深める。(事業所の評価(アンケート)やTV番組の西城町特集の場面を鑑賞ヒントにする) 職場体験学習の学びを通して自分たちが感じた地域への誇りや、事業所の方の思いについて意見交流をする。 	○		○	課-① (活動メモ) 主-⑧ (行動観察, 発言内容)

3	<p>職場体験学習で学んだことを発信する方法について案を考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「地域の魅力」と「職場体験先の人の思い」に焦点を置き、自分たちができる地域貢献をどんな形で表現していけば良いのか、アイデアを出し合う。(地域(事業所)に魅力や職場体験先の人の思いを伝えるための工夫としてどんな発信方法があるか?) →動画(ビデオメッセージ)の提案をする。 				
4	<p>整理・分析</p> <p>“地域の魅力”と“職場体験先の人の思い”を動画で届けるための表現方法を考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「地域の魅力」と「体験先の人の思い」を届けることを目的としてつくることを再度認識する。 地域の魅力と職場体験先の人の思いを動画にして届けるにあたり、どんな形で表現していくかを考える。 →「ポスターを作成して見せる」、「キャラクターを発案する」、「紙芝居や漫画で表現する」、「劇をする」、「歌をつくって披露する」等様々な視点から動画で伝える方法を探る。 				<p>課②, ③, ④ (行動観察)</p> <p>協⑨(行動観察)</p>
5	<p>“地域の魅力”と“職場体験先の人の思い”が地域に届く動画にするための構成を考えよう。①</p> <ul style="list-style-type: none"> (途中までを実際に撮る) → (発表) → (再考) → (続きを撮る) → (地域に発信) という計画を伝え、今後の見通しをもたせる。 地域の魅力と職場体験先の人の思いについて、伝えたい内容を具体化し、撮影内容の構成を考える。(考える手立てとしてサンプル動画を見せ、イメージをもたせる) 絵コンテを作成する。(テイクワンを前提として考えさせる) 農産物や事業所、自分たちの発信内容が「最高!」と思えるような内容になるように考える。 	○	○	○	
6	<p>“地域の魅力”と“職場体験先の人の思い”が地域に届く動画にするための構成を考えよう。②</p> <ul style="list-style-type: none"> 構成を考える中で、新たに見つけた疑問等を事業所にインタビューし、伝えたい内容を膨らませる。 構成を決定する。(絵コンテの完成) 地域の魅力や職場体験先の人の思いが届く内容になっているか意識しながら構成を考える。 				
7	<p>まとめ・創造・表現</p> <p>撮影に向けて準備をしよう。①</p> <ul style="list-style-type: none"> 撮影に向けて必要な小道具の準備をする。 撮影のための練習をする。 				<p>課⑤ (動画成果物)</p> <p>主⑧ (行動観察, ワークシート)</p>
8	<p>撮影に向けて準備をしよう。②</p> <ul style="list-style-type: none"> 次回撮影することを意識し、リハーサルをする。 				
9	<p>“地域の魅力”と“職場体験先の人の思い”を地域に届ける動画を撮ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の魅力や職場体験先の人の思いが伝わるビデオメッセージを実際に撮る。 		○	○	<p>協⑩, ⑪ (行動観察)</p>
10	<p>現時点での「最高!」の動画を発表しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> つくった動画をクラスで発表する。 それぞれの動画を見て、地域の魅力を伝える工夫、職場体験先の人の思いを伝えるための工夫ができているか確認し、自分たちのグループの改善点を見つける。 				

11	<p>“地域の魅力”と“職場体験先の人の思い”がより伝わる動画になるように再考しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラス発表での発表を基に、自分たちの動画の内容の改善点を協議し、再考する。 ・動画を見直したり、絵コンテに書き込みをしながら修正する。 				
12	<p>“地域の魅力”と“職場体験先の人の思い”が地域に届く動画を完成させよう。①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協議した内容を見直し、修正したものを撮るための準備や練習をする。 				
13	<p>“地域の魅力”と“職場体験先の人の思い”が地域に届く動画を完成させよう。②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動画を撮影し、完成させる。 				
14	<p>実行</p> <p>評価してもらうためのアンケートをつくり、ビデオメッセージと一緒に届けよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・取組を評価してもらうためのアンケート等を作成する。 ・地域の魅力と職場体験先の人の思いが伝わっているかを視点に、アンケートの質問内容を考える。 ・地域の方や事業所の方へ成果物とアンケートを届ける。 		○		課－④ (ワークシート)
15	<p>ふりかえり 課題の更新</p> <p>取組を振り返り、1年生にはどんなことを伝えるか考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の方や事業所の方へ成果物を届け、アンケート等で自分たちの学習を振り返る。 ・次の1年生への発信に向けて、1年生に伝えたいことを考える。 		○		課－⑥ (ワークシート)

5 総括的な評価の方法

(1) 小単元（プロセス3）のパフォーマンス課題

職場体験学習での体験・経験を地域貢献への力につなげるために、自分たちの取組を次の学年に引き継ごう。

(2) 小単元（プロセス3）の評価ルーブリック

【小単元（プロセス3）】体験・経験を地域貢献への力に～「感謝」を行動に～

評定	観点
A	新たな企画発信での取組の成果と課題を踏まえて、職場体験学習で学んだことやこれまでの自分たちの取組について、地域とのつながりや自己の生き方と関連させ、取組の重点を示しながら1年生に紹介することができる。
B	新たな企画発信での取組の成果と課題を踏まえて、職場体験学習で学んだことやこれまでの自分たちの取組について1年生に紹介することができる。
C	職場体験学習で学んだことやこれまでの自分たちの取組について1年生に紹介できる。
D	職場体験学習の取組について1年生に紹介できる。

6 本時の学習

(1) 本時の目標

「地域の魅力」と「職場体験先の方の思い」を届けられるような動画になっているかという視点で、より思いが伝わる動画になるように、改善に向け意見を出し合い、修正することができる。

(2) 本時の深い学びの姿

「地域の魅力」と「職場体験先の方の思い」が伝わるものになっているかの視点を踏まえ、自分たちの動画を見直したり、他グループの動画や他者の意見を参考にしたりして、思いが伝わる動画になるように自分たちの動画の内容を再考している。

(3) 本時のルーブリック

評定	観点
A	地域の魅力や職場体験先の方の思いが伝わる動画を発信するという目的意識をもって、自分たちの動画を見直したり他グループの動画や他者の意見を参考にしたりして、活発な協議を通して動画の内容を改善している。
B	地域の魅力や職場体験先の方の思いが伝わる動画を発信するという目的意識をもって、前時の内容を踏まえて協議し、動画の内容を改善している。
C	動画の内容をグループで改善している。

(4) 学習の流れ (11 時間目 / 全 15 時間)

学習活動	指導上の留意事項 (◇) (◆「努力を要する」と判断した生徒への指導の手立て) (◎深い学びを実現するための指導の手立て)	評価規準 (○) 資質・能力 (★) (評価方法)
1 前時の活動を想起する。	◇前時で気付いた自分たちのグループの動画の良い点、改善点等を確認させる。 ◇動画作成の目的を再確認させる。 ・自分たちが捉えた「地域貢献」の意味について ・相手意識をもって伝えることについて	
2 本時のめあてを確認する。		
<p>“地域の魅力”と“職場体験先の方の思い”がより伝わる動画になるように再考しよう。</p>		
3 改善点を意識しながら全てのグループの動画を見る。	◇めあてを提示するとともに、視点をはっきりさせる。 ◇「地域の魅力」と「職場体験先の方の思い」の視点からどのように改善すると良いかを意識しながら、再度動画を見させる。	

<p>4 グループで意見を出し合い、「地域の魅力」と「感謝の気持ち」が届く動画になるように再考し、動画の修正を進める。</p>	<p>◇自分たちが作った動画を見直したり、他グループの動画と比較したりしながら協議させ、グループの課題を掴み、その改善を図らせる。</p> <p>◆タブレットを用いて、動画を繰り返し再生しながら確認できるようにさせる。</p> <p>◆絵コンテに追加、修正を加えながら思考を整理させる。</p> <p>◎各グループでの話し合いの中でこの動画は「誰のために」「何のために」つくっているのか再度意識させるように促す。(T2)</p> <p>◎届ける方への相手意識をもって動画が修正できるよう促す。(T2)</p>	<p>○他グループの工夫を参考にしながら、自分たちの動画が「地域の魅力」と「感謝の気持ち」が伝わるものになっているか考え、改善の方向性を見出している。</p> <p>★課題解決力 (ワークシートへの書き込み、行動観察)</p>
<p>(予想される生徒の反応例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の思いを伝えるために、地域の方の声を入れてみてはどうか。 ・地域のPRばかりになっているので、感謝の気持ちを入れよう。 ・他の班の工夫を自分たちの企画にも取り入れることはできないか。 ・ユーモアを交えた内容になるように工夫すると親しみをもって楽しんで見られる。 		<p>○仲間の考えや意見を受け入れ、まとめながら柔軟に取り組みを進めている。</p> <p>★協調性 (発言内容、行動観察)</p>
<p>5 本時を振り返り、次時につなげる。</p>	<p>◆振り返りをグループで共有し、全体で共有する。</p> <p>◇次回に向けての見通しをもたせる。</p>	
<p>(生徒の振り返り例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の人の意見を参考にしながら、より思いが届くような内容になっているか自分たちの動画を見直しながら再度しっかり考えることができた。 ・地域の魅力と事業所の方への感謝の気持ち両方の思いが届くような内容になっているか、他のグループの提案も参考にしながら考え改善していくことができた。 ・自分たちの思いを届けるだけでなく、地域の人の願いも伝わるような内容にしたい。 ・情報が多すぎるとまとまりがないので、精選してシンプルにまとめて思いが届くように考えていけないといけない。 ・本当に伝えるべきことは何かよく考えて、自信をもって地域に発信できるものを完成させていきたい。 		

(5) 板書計画

めあて “地域の魅力”と“職場体験先の人の思い”がより伝わる動画になるように再考しよう。

【地域貢献とは】

- ・地域に恩返し
- ・喜んでもらう
- ・地域全体が笑顔に
- ・地域の良さを広める
- ・地域の役に立つ
- ・生活が豊かになる

【グループ発表を通して】

- 自分⇄相手
→自己満足ではなく相手意識に立って！！
- 自グループ⇄他グループ
→自グループにない良いものを見つけ、取り入れる。

【ポイント】

- ①地域の魅力
- ②学んで良かったこと

感謝の気持ち

振り返り